

# 令和4年度 「青少年の家」不登校対策事業 第4回ふれあいキャンプ 事業報告書

担当：小俣

## 1 事業概要

### (1) 趣 旨

不登校傾向にある児童生徒の活動意欲、コミュニケーション力、自己肯定感の向上と社会的自立を図るため、不登校の状態に応じた段階的な活動機会の提供と相談対応を行い、年間を通じた居場所を構築する。

(SDGs との関連)



4 質の高い教育をみんなに



10 人や国の不平等をなくそう



14 海の豊かさを守ろう



15 陸の豊かさも守ろう



17 パートナーシップで目標を達成しよう

(2) 対 象 不登校の小中高生で、本人の参加意志のある者20名程度

(3) 実施期日 令和4年10月15日(土)～16日(日)

(4) 実施場所 大分県立香々地の青少年の家

(5) 参加者数 9名(児童生徒6名、保護者等3名)

(6) 講 師 大分大学教授 溝口 剛 氏(スーパーバイザー)

(7) 支 援 者 大分大学学生12名

### (8) プログラム

#### ① 出合いのつどい「アイスブレイキング」(視聴覚室)

大学生ボランティア(以下、メンタルフレンドという)との出合いの場である。アイスブレイキングもかねて、メンタルフレンドに「秋の楽しみ」というテーマでスピーチを行ってもらった。

#### ② 活動1「サツマイモ収穫」(地元農家提携農園)

第1回で植えたサツマイモを収穫した。

当日は季候も良く、活動しやすい気温だったこともあり、意欲的に移植ゴテを使って土の中にあるサツマイモを掘り出していた。大きなイモが見つかるたびに、喜びの声をあげ活動時間の最後まで集中して取り組むことができた。

コンテナいっぱいのサツマイモを収穫することができた。

今回も2人の講師を招いて収穫のこつを指導してもらった。

#### ③ 「のんびりタイム」(レクリエーション室・創作室・談話室・アスレチック)

複数回参加の子どもが多いこともあり、遊び・場所・時間など思い思いに選択して過ごすことができた。

特に、屋外にあるアスレチックゾーンで複数人集まり、鬼ごっこをしたりアスレチックで遊んだりして、参加者どうしのつながりももつことができた。

#### ④ 「保護者懇談会」(談話室)

保護者・施設職員・アドバイザー7名の参加(初参加保護者1名)があった。子どもの家庭での様子や悩んでいることなどが語られ、思いを共有する場となった。

#### ⑤ 活動2「ナイト探検」(屋外)

保護者懇談会と同じ時間帯で行った。プラネタリウムに集合し



講師の村上さん、安部さん  
ありがとうございました



どっさり収穫できました!



焼きイモができあがるまで、イモはんこづくり  
全集中!

物語仕立てで、所内各所に設置されている剣などのアイテムを集めて回るオリエンテーション活動である。

ランタンとヒントとなる所内地図を見ながら、2グループに分かれて歓声をあげながら楽しそうに歩く姿が見られた。

### ⑥「メンタルフレンド会議」（談話室）

一日をふりかえりながら、課題や困っていること、成長が見られた点など、様々な視点で子どもの様子を出し合い共有することができた。参加者どうしのトラブルへの対処や成長が見られた姿など、1日の様子を出し合い翌日の活動における留意点などを確認することができた。

### ⑦活動3「サツマイモ収穫祭」（研修棟創作室）

前日に収穫したサツマイモをたき火にくべ、焼きイモづくりを行った。できあがるまでの時間を利用して、イモはんこづくりにも挑戦した。彫刻刀を使って彫るといふ細かな作業であるが、集中して取り組んだ。思い通りのできあがりにならないこともあったが、根気強く作り直したり修正したりと粘り強くやり遂げる姿が見られた。

焼きイモは全てよく火が通り、試食しながら談笑する時間となった。

### ⑧別れのつどい（まとめ・振り返り）

つどいでは、メンタルフレンド全員から2日間の感想が発表された。楽しかったことやきつかったことなど、子どもの様子を中心に、参加者もしっかりと話を聞くことができていた。

最後にドローンを飛ばし、次回の案内を行った。突然のドローンの飛来に驚きながらも、参加者からは次も参加したいという声が多数聞かれた。



ほくほくの焼きイモ最高



感想発表するメンタルフレンド  
別れはいつもさみしい  
また会いましょう！

## (9) 事業評価

### ○参加者アンケート集計（回答数：5）

#### ・プログラムについて

	内 容	楽しかった	少し楽しかった	あまり楽しくなかった	楽しくなかった
①	サツマイモ収穫	5	0	0	0
②	のんびりタイム	4	1	0	0
③	ナイト探検	4	1	0	0
④	焼きイモ・イモはんこづくり	4	1	0	0

#### ・自分の事について

	内 容	できた	少しできた	あまりできなかった	できなかった
①	積極的に取り組む事ができた	4	1	0	0
②	MFと話ができた	5	0	0	0
③	キャンプを楽しむことができた	4	1	0	0
④	まわりの力をかりずに活動できた	2	2	1	0

## 2 成果と課題

### (1) 成果

- ・今回も「のんびりタイム（自由選択活動）」での満足度が高く維持されたことが分かる（前回肯定的回答100%）。自己選択・自己決定を促す機会となるとともに、参加者どうしのコミュニケーションやつながりを深める時間としての意義が大きい。
- ・第1回（イモ差し）からつながる農業体験活動であった。気候とも関連するが、過ぎしやすい時期での収穫体験は満足度も高くなる。内容も作物を探しながら行うことから、

- ・IKR 調査では、以下の通りの分析結果となっている。  
＜質問項目別平均点比較（28項目）＞  
28項目中13項目において平均点↑・・・46.2%

＜生きる力全般＞

「生きる力」の変容・・・・・・・・1.6ポイント↓（有意差なし）

＜生きる力3つの上位能力＞

「心理社会的能力」の変容・・・・1.6ポイント↑（有意差なし）

「徳育的能力」の変容・・・・・・・・3.2ポイント↓（有意差あり）

「身体的能力」の変容・・・・・・・・変化なし

- ・「徳育的能力」の変容が3.2ポイントの低下がみられた。特に低下が見られた質問項目としては、「12. いやがらずに、よく働く」が1.2ポイント、「26. 自分に割り当てられた仕事は、しっかりとやる」が1.0ポイントそれぞれ低下している。この背景としては、2日間での参加者個人に対する役割分担や進んで働くなどの内容を前面に出していないことから、この2項目の質問に対する実感がないことが大きな要因ではないかと推測する。

## （2）課題

- ・今回は6名と参加者数が少なかった。農業体験の楽しさや期待感がもてるような周知が不足していたのではないかと考えられる。周知の期間も十分とはいえず、各フリースクール等への積極的な参加呼びかけをしていく必要がある。
- ・新規参加者を増進するために、こまめにメーリングリストを活用した周知や募集を行っている。保護者どうしのつながりも回を重ねるごとに深まっていることから、保護者懇談会への参加も積極的に呼びかけていく必要がある。  
トライアルデー・活動日への実施回数・参加者数も伸びてきているが、継続して周知していく必要がある。